

高浜市の未来を創る市民会議(第5回)

「市民会議からの提言」に対する行政の考え方 ・対応を発表します【報告】



日時 平成25年2月5日【火】
午後7:00～各分科会終了
場所 市役所4階 第2会議室

1 全体会

(1) お知らせしたいことがあります(情報共有コーナー)

<井原祥子さん(地域福祉分科会)>

- ・2月23日(土)午後1:30~4:00、第16回ざっくばらんなカフェ「2人の市長が語るざっくばらんなまちづくり論」をいきいき広場いきいきホールにて開催する。長久手市長吉田一平さんと、高浜市長を招いて、それぞれのまちづくりについて熱く語っていただく。電話またはメールで申込の上、ぜひお越しいただきたい。

<木村博行さん(環境・憩い分科会)>

- ・チャレンジサポートたかはまでは、チャレンジドの就労訓練の一環として名刺作成を行っているが、このたび、「大家族たかはま」キャッチフレーズのロゴを印字した名刺の作成を開始した。年度の変わり目でもあるので、よろしければ活用していただきたい。

<神谷環光さん(産業・観光分科会)>

- ・2月9日(土)~3月16日(土)の間、午前10:30よりかわら美術館シアターにて「タカハマ物語」の再上映を行うので、足を運んでいただきたい。
- ・3月24日(日)、かわら美術館および森前公園にて「バコハマまつり」を開催する。多くの中高生が活躍するほか、朝2回、昼2回、タカハマ物語の再上映を行うので、足を運んでいただきたい。

<東文彦さん(文化スポーツグループ)>

- ・生涯学習分科会の取り組みとして、地域の活動の情報を募集している。現在、行政内部で行った調査結果を市公式HPに公開しているが、それ以外の情報を増やしていきたいので、記入例を参考にし、ぜひ情報をお寄せいただきたい。
- ・地域の達人の情報を募集している。地域の達人をチェーンネット形式で紹介する取り組みの第1弾として、生涯学習分科会の村松輝一さんが、切手アートの達人として広報「たかはま」2月15日号に登場する。“地域にこんな達人がいる”という情報があれば、自薦他薦問わずお寄せいただきたい。

(2)「市民会議からの提言」に対する行政の考え方・対応を発表します

※平成24年10月に市長に提出された「市民会議からの提言」に対し、各担当グループのリーダーが考え方・対応を発表



【目標（1）に対する自治推進分科会からの提言】

1. まちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を広げよう！

（回答者：地域政策GL 岡島正明）

- 平成33年度までのまちづくりのキャッチフレーズ「思いやり 支え合い 手と手をつなぐ 大家族たかはま」を広げていこうということで、9つの提言をいただいた。
- 今年度と来年度ですべて達成できる見込みである。
- 対応状況は10月～12月までを重点期間とし、全庁を挙げてさまざまな取り組みを行ってきた。とにかくできることをやろうと、42の取り組みが行われた。

（例）○のぼり旗を推進会議、高浜まちづくり協議会ソフトボール大会、シンポジウム、愛知県市町村駅伝、シティマラソンにて掲げた。

○回覧板にロゴの焼き付けを行った。

○南部まち協がロゴ入りのアーチを作製し、使用した。

○大山の桜の里親会でパネルを活用した。

○ロゴ入りの「大家族ジャンパー」を自治推進分科会全員が購入し、背中で広めていただいている。

○大家族ロゴのゴム印を作製し、封筒に押印して発送している。



【目標（2）に対する財政分科会からの提言】

1. より多くの市民のみなさんに財政状況に関心を持ってもらおう！

（回答者：財務GL 竹内正夫）

- より多くの市民の皆さんに財政状況に関心を持ってもらおうということで、これまでにない斬新なアイデアをいただいた。
 - 遊び・ゲームをとり入れる。
 - 財政の情報をシリーズ化する。
 - タッチパネルを設置して、財政の情報を自由に閲覧できるようにする。
 - 財政の見える化をする。
- 今年度メンバー全員で財政クイズを作成し、クイズ大会を開催する。来年度はクイズを活かした財政ゲームを行う。
- 「わかりやすい財政のお話」をバージョンアップし、シリーズ化していく。
- タッチパネルの設置まではいかなくとも、若年層が訪れる公共施設にポスターを貼ることによって財政の見える化を図る。



2. 行政運営を効率化しよう！

(回答者：人事GL 野口恒夫)

- 行政課題が増加する中、限られた人員で仕事をするにあたり、これまでの考え方・やり方では対応できない。
- 平成25年4月より高浜市の将来を切り開くための知識と実践を身につけるため、将来を担う中堅職員20名を対象に「たかはま地域経営実践塾」を開講する。塾長には高浜市の構造改革推進検討委員会に携わっていただいた首都大学東京大学院教授の大杉寛先生をお招きし、平成25年度1年間かけて取り組んでいく。



【目標（3）に対する自治推進分科会からの提言】

1. 「高浜市自治基本条例 子ども向け副読本」を活用した出前授業に出かけよう！

(回答者：地域政策GL 岡島正明)

- 教育委員会と連携し、明後日2月7日（木）に高浜小学校6年生3クラスを対象に、モデル校として出前授業を行う。
- 45分間でいかに想いを伝えるかということで、1月31日には先生をお招きしてリハーサルし、助言をいただいた。自治推進分科会メンバーは、本番に向けてのどの調子を整えている。
- 子ども向け副読本はワークシート欄が設けてあり、宿題として子どもと親と一緒に考えるという構成になっており、自治基本条例の精神「みんなで力を合わせてまちづくりをしていこう」という想いが広まればよい。

2. 地域で副読本を活用しよう！

(回答者：地域政策GL 岡島正明)

- 来年度、まち協の子ども向け講座などに活用していただけるよう、どのように活用していけるかを考え準備している。

【目標（4）に対する生涯学習分科会からの提言】

1. 生涯学習の取り組みを調査し、「現状の見える化」を行おう！

(回答者：文化スポーツGL 内藤克己)

- 市内でどのような取り組みが行われているか広く調べてみてはどうかということで、現在、行政が把握している生涯学習の取り組みは調査し終わり、結果一覧をHPなどでお知らせしている。
- 本日市民会議の皆さんにもお知らせしたように、今後は市民の皆さんにも調査をお願いし、生涯学習の取り組みと地域の達人の掘り起こしに取り組んでいく。

2. 調査した内容を取りまとめ、情報発信しよう！

(回答者：文化スポーツGL 内藤克己)

- 地域の達人を「広報たかはま」にチェーンネット形式で紹介し、達人の輪を広げていってはどうかということで、生涯学習の取り組みや地域の達人を市のHPで紹介していくことを予定している。
- 現在、生涯学習分科会で紹介する内容やデザインについて話し合っている。
- 達人の紹介については、「広報たかはま」2月15日号を皮切りに、1カ月に1回の予定で掲載していく。

3. 「教える人」と「教えてもらう人」の結びつけを考えよう！

(回答者：文化スポーツGL 内藤克己)

- ・何よりも地域の達人が活躍できる場のセッティングが必要ではないかということで、現在地域の達人が先生となって、子ども達が市民の皆さんに教えてもらう「高浜（まち）の学校」を今年の夏休みに予定している。
- ・まずは3月17日（日）にお試し版「高浜（まち）の学校」を実施する。
- ・まち協を中心に地域の子供達に教える講座を行っているが、「高浜（まち）の学校」では範囲を市内全域を対象とし、今後協力をお願いしていく。

【目標（5）に対する学校教育分科会からの提言】

1. まずは、市民や地域が関わる学校授業・行事を「見える化」していこう！

(回答者：教育センターG副主幹 小嶋俊明)

- ・学校がどんなことをしているのか、どんなことを必要としているのか、保護者の方だけでなく、市民に全体像が見えるようにしていく。
- ・それに向けて3つの取り組みを行い、2つの課題が出た。

取り組み① 行事カレンダーを作成し、各種団体から子どもの参加依頼のある行事を調査し、洗い出しを行った。

取り組み② 「広報たかはま」毎月1日号に「学校通信」のコーナーを設け、学校の想いを発信した。

取り組み③ 分科会メンバーによる学校訪問をし、日頃の学校の様子を実見した。



課題① 様々な支援により教育活動が充実する一方で、学校は多忙となっている。

課題② 学校への支援、学校を拠点としたまちづくりの意識が高まる一方で、各種団体からの行事依頼が学校へ集中している。

2. 学校の想いと地域の想いをマッチングさせていこう！

(回答者：教育センターG副主幹 小嶋俊明)

- ・学校関係者・各種支援団体が集まり、想いを伝えあう場、コーディネートする機能を設けることができないかとなった。ただし、それには信頼関係が必要である。学校教育の立場に「子どもたちのため」、生涯学習の立場に「市民の生きがいの活躍の場」がある。この両者が互いに発展していくためには信頼関係が必要である。
- ・これからの高浜市は、両者が互いの想いをもちつつ、理解し合い、受け入れながら進めていける学校づくりを目指していく。
- ・教育基本構想を基盤に、生涯学習基本構想を踏まえながら、さらなる検討を和気あいあいと進めていく。



【目標（6）に対する生涯学習分科会からの提言】

1. 絵本を活用して、市民に「たかほま子ども市民憲章」を広めよう！

（回答者：文化スポーツGL 内藤克己）

- ・笑顔の写真展の会場において絵本「わたしはね・・・」のラミネートパネルを掲示するとともに、憲章の条文を掲示した。
- ・来年度も掲示を継続し、表彰式の際に絵本の読み聞かせをする。



2. イベントを活用して「たかほま子ども市民憲章」の想いを知ってもらおう！

（回答者：文化スポーツGL 内藤克己）

- ・家族で参加できるイベントで憲章をPRすることで、憲章の狙いを浸透させることができる。
- ・11月4日（日）開催のいきいき広場でのわくわくフェスティバル、11月11日（日）に市民センターにて実施した家庭教育推進大会西三河大会にて、子ども市民憲章とその説明文を掲示し、笑顔の写真展のパネル展示と来場者による人気投票を行い、PRに努めた。
- ・今後もイベントを中心に絵本のパネルや市民憲章の掲示を行っていく。

3. 笑顔の写真展（既存事業）をより充実しよう！

（回答者：文化スポーツGL 内藤克己）

- ・展示場所を臨時展示も含めて2か所から3か所に増やし、パネルを市内5つの小学校に配布し、11月から1か月間校内に設置していただいた。
- ・来年度は、ご近所部門などを新設し、より多くの人に関われるようにしていきたい。

【目標（7）に対する産業・観光分科会からの提言】

1. 特産品の開発についてのアイデア

（回答者：地域産業G主幹 杉浦義人）

- ・産直を「広報たかはま」1月1日号にてPRした。
- ・特産物開発プロジェクト、農業地利用改善組合にて承認された青ナスを来年度から特産野菜とし、料理レシピの募集、イベントでの試食、新たな加工品の募集をする。
- ・今後も新たな特産野菜の開発をはじめ、農業地利用改善組合の方や市内の飲食店の協力を得て、農業経営の安定に努めていく。



2. 三州瓦の販路拡大についてのアイデア

（回答者：地域産業G主幹 杉浦義人）

- ・7月から鬼師の作業場見学を市内5か所で受け入れている。
- ・6月と11月に刈谷ハイウェイオアシスにて鬼師の実演を行った。
- ・県外の三州瓦の展示会では三州瓦のブランド強化と鬼師の実演を合わせて全国に情報発信した。
- ・今後も関係機関と連携して地場産業への支援を積極的に行っていく。

【目標（８）に対する産業・観光分科会からの提言】

1. コミュニティ・ビジネスの起業支援策についてのアイデア

（回答者：経営戦略GL 山本時雄）

- 新たなビジネスの創出について運営資金支援策を考えてはどうかということで、起業しようとしている個人、事業者、市民公益活動団体に対して創業支援、運営資金の交付制度を平成25年度より実施する。
- 1月20日（日）、いきいき広場にて、コミュニティ・ビジネス アイデアプラン発表会を開催した。100名を超える市民に参加いただき、5件のコミュニティ・ビジネスの事業計画と13件のアイデア発表があり、地域が抱える課題に対して市民の方が積極的に課題解決に向けての説明を受けるとともに、問題意識の共有が図られる発表会となった。今後はいただいたアイデアについて、関係グループとの調整を図りながら、この中からコミュニティ・ビジネスにつながっていけばと思っている。その際に、企業に対する支援になれば幸いである。
- 引き続きコミュニティ・ビジネスの支援についてさらなる検討をしていく。



2. 新たな観光資源の発掘についてのアイデア

（回答者：地域産業G主幹 杉浦義人）

- 高浜の自慢である三州瓦・鬼瓦・鬼師・とりめしをつなげてPRする。
- 昨年10月に北九州市にて開催されたB-1グランプリにおいて、三州瓦・鬼瓦のパンフレットを配布するなど、情報発信をした。
- 今後も、あらゆる機会を利用して、三州瓦・鬼瓦・とりめしを情報発信していく。

【目標（9）に対する環境・憩い分科会からの提言】

1. マナー向上作戦を実施しよう！
2. 分別収集作戦を実施しよう！
3. ルール違反に粘り強く対応しよう！

（回答者：市民生活GL 山下浩二）

- すべての提言が意識改革への挑戦である。
- 対策として共通しているのは、将来を担うであろう子どもたちへの働きかけが必要である。これらの提言は実験・検証の必要がある。
- ルール違反に粘り強く対応する取り組みの一環として看板を作り、ここにお持ちした。港小学校4年生に描いていただいた。子どもたちがこのような意識であることをアピールするため、既製品ではなく、このような看板を採用することで効果を狙う。
- 現在は設置場所について、子どもたちとともに検討中である、今後は効果について検証していきたい。
- 「みんなでまちをきれいにします」は行政だけでは本質的な解決はできない。当事者と連携しながら、継続的に粘り強く取り組み、進めていく。



【目標（10）に対する防犯・防災分科会からの提言】

1. 昼間に青パトで地域を巡回する際、道路標示や道路標識の不良箇所の情報を早期に行政に提供する。

（回答者：都市防災GL 芝田啓二）

- まち協に対して、青色防犯パトロール実施時に、道路標示や道路標識などの不良箇所についての情報提供を依頼した。
- 今後は、青色防犯パトロールの講習会開催時に、参加者の皆さんに同様の情報提供をよびかけていく。

2. 高浜市の玄関口として、現在工事中の衣浦大橋交差点の立体橋の桁色の選定について市民の皆さんの意見を聞き、桁色を決定する。

（回答者：都市整備GL 平山昌秋）

- 昨年9月24日（月）、第3回市民会議にて衣浦大橋の橋桁の色のアンケートを行った結果、黄土色が一番人気であり、決定した。
- 愛知県知立建設事務所は、平成24年度から4年間にわたり、平成27年度まで桁の工事を行う。
- 平成27年度後半には黄土色の橋が見られるようになる。アンケート結果が橋の色になり、親しみやすいと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。

【目標（11）に対する環境・憩い分科会からの提言】

1. 身近な憩いの場を大切にしよう！

（回答者：都市整備GL 平山昌秋）

- 芳川町の高浜緑地流作新田貯木場に平成8年度から23年度にかけて造成工事を行った。工事が終わり、面積は2.4ヘクタールある。
- 平成25年度に愛知県の衣浦港務所に上部利用の詳細設計を出していただく。スポーツ団体・ボランティア活動をする方、海岸に親しんでいる方の意向を踏まえ、高浜緑地の整備を行っていきたい。
- 整備については平成26年度から上部利用の整備を行っていく。



【目標（12）に対する防犯・防災分科会からの提言】

1. 家庭、地域、学校、職場で「あいさつ運動」を展開する。小学校の通学路に「あいさつ通り」を設置する。

（回答者：都市防災GL 芝田啓二）

- ・「広報たかはま」に掲載するとともに、各種団体が実施している登下校時の見守り活動、PTAにあいさつ運動を取り入れていただくよう依頼する。

2. より効果が上がる「こども110番」を目指し、関係者による打合せや講習会などを開催する。

（回答者：都市防災GL 芝田啓二）

- ・防犯・防災分科会で検討した結果、平成25年度には実施しないこととする。

3. 標高サインの表示を希望するコンビニ、医療機関など、不特定の方が利用する施設に標高サインを配布し、啓発を図る。（広報・ホームページで募集）

（回答者：都市防災GL 芝田啓二）

- ・標高サインの第2ステップとして、コンビニ・医療機関など不特定の方が利用する施設に対して、標高シールの設置・配布をする。
- ・「広報たかはま」2月1日号にて、標高サインの設置場所の募集の記事をのせ、広くPRした。
- ・2月を強化月間とし、分科会メンバーが地域のコンビニや医療機関を訪問し、直接標高シールの設置を依頼している。

4. 市内の防災リーダーやNPO団体、大学教授などによる、小中学校での防災教育の推進やNPO団体、大学教授、被災体験者などによる、東日本大震災の経験を伝えるための講演会を開催する。

（回答者：都市防災GL 芝田啓二）

- ・平成25年度の「防災ネットきずこう会」の事業計画の中で、被災体験者などによる講演会を開催するように調整中である。



【目標（13）に対する地域福祉分科会からの提言】

1. 「Newボランティア人」を地域に広めよう！

（回答者：地域福祉GL 杉浦崇臣）

- ・市民の方への理解促進・実践に向けたアイデアをいただいた。
- ・定住自立圏市民活動情報サイト「刈谷衣浦つながるネット」の新着情報においてPRしている。
- ・子どもからお年寄りまでの幅広い層の方から「困っている人への手助けを行う」、「散歩時にごみを拾う」などのNewボランティア人としての宣言をしていただいた。
- ・いきいき健康マイレージ制度と調整を図りながら、仕組みをつくる。

2. ボランティアがさらに元気になるようにしよう！

（回答者：地域福祉GL 杉浦崇臣）

- ・登録方法の見直し・活動の場づくりのため、次のような取り組みを行う。
- ①来年度中に地域の身近な場所にてボランティア登録ができる仕組みづくり、まち協などへの働きかけを行う
 - ②来年度中に困りごとへの支え手としての活動の場の提供、ポッチャ事業の運営参加者を募るなど、新たな活動の場をつくっていく。

3. 高齢者・障がい者への理解とつながりを深めよう！

（回答者：地域福祉GL 杉浦崇臣）

- ・要援護者支援やポッチャでのつながりづくりについてのアイデアをいただいた。
- ・ポッチャの大会を高齢者や障害者の運営・参加により、30チーム102名の参加のもと、開催した。
- ・本日からポッチャ出前講座をスタートした。今後は地域にポッチャを広め、来年度には実行委員会を立ち上げ、ポッチャを取り入れたスポーツ大会を開催していく。
- ・災害時要援護者支援策として、来年度中に福祉避難所の指定事業所や関係機関に協力を働きかけ、各種訓練や支援計画の策定を行っていく。



【目標（14）に対する健康分科会からの提言】

1. 地域医療ネットワークを知ろう！かかりつけ医を持とう！

（保健福祉GL 加藤一志）

- 地域医療ネットワークを広めていくための市民の方への情報提供と啓発活動についてのアイデアをいただいた。
- 平成24年10月より、市内の医療機関でのネットワークへの接続を開始した。運用機関が増えている。
- 理解を深めていただくため、1月19日（土）に刈谷豊田総合病院の地域医療総合相談センターの職員を講師にお招きし、講演会を開催した。
- 本日配布した「上手なお医者さんのかかり方」という冊子は、地域医療ネットワークが接続される、高浜市・刈谷市・知立市・東浦町の3市1町により作成した。

2. 「いきいき健康マイレージ」ロコミ作戦を始めよう！「いきいき健康マイレージ」実践者の声を広めよう！

（回答者：保健福祉GL 加藤一志）

- 提言に基づき、インフルエンザ通知に案内チラシを同封する等、具体的な取り組みを行った。

3. 地域の事業に積極的に参加しよう！

（回答者：保健福祉GL 加藤一志）

- 市民の健康の保持と増進を目的とした保健医療推進協議会にて協議いただき、一次予防・二次予防の取り組み、健康であることがいかに大切であるかをしっかりPRすることが必要であると意見をいただいているので、今後の取り組みに活かしていく。



※質疑応答

Q、標高の見える化第2弾を進めていると思うが、医療機関やコンビニからの反応はどうか。

A、防犯・防災分科会メンバー・職員にて、まち協単位で1つのブロックに分けてPRしている。予定より若干早くスタートしていて、今のところ5件の応募がある。本格実施はこれから行っていく。



(3) 市民会議各分科会の「目標達成に向けた取り組みテーマ」について
(資料2をもとに説明)

- 11月6日に目標達成に向けた取り組みテーマを各分科会で決めた。他の分科会のテーマや内容を情報共有しようということで一覧化し、「子ども」・「ネットワーク」・「PR」・「見える化」の4つにカテゴリーを設けて表した。

2 分科会

(1) 本日の分科会で行うこと

- 第6回全体会では、下半期の取り組みの成果について、発表していただく。下半期の取り組みの発表について打ち合わせをしていただきたい。
- 発表フォーマットを職員中心でまとめる。皆さんにもご協力いただきたい。
- 1年間市民会議に参加してきた中でのエピソードや、もっとこうの方が良いという想いなどについて、アンケートの記入にご協力いただきたい。

(2) 分科会に分かれて話し合い

各分科会の議事録を参照

3 お知らせ

次回の市民会議全体会を以下の通り、開催する。

<第6回> 3月1日(金) 19:00~20:45 中央公民館にて

- 各分科会が取り組んだ「目標達成に向けた取り組み」の成果（検討結果や取組内容）を発表
- H24市民会議を振り返って

